

試験成績書

品名 : UVカットリフォームフレキ
カンタンフレキ

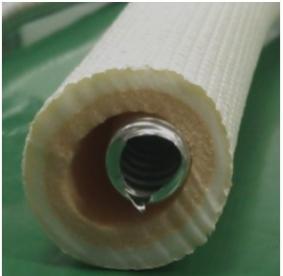
項目 : 保温性試験

KISS 三和商工 株式会社

1. 目的

UVカットリフォームフレキとカンタンフレキの保温性を、裸管（被覆なし）と比較を行う。

2. 試料

	①UVカットリフォームフレキ	②カンタンフレキ	③裸管
外観			
被覆材	樹脂（PVC系TPE）	保温材	なし
外径	Φ20	Φ37	Φ16
被覆材肉厚	2mm	10mm	-

3. 評価項目

3.1 保温性試験（封入）

2mの試料に80°Cの熱水を満たし、10分間放置する。その後、表面温度と流体温度を測定する。

3.2 保温性試験（通水）

2mまたは10mの試料に80°Cの熱水を通水させ、出口側の流体温度を測定する。

4. 結果

4.1 保温性試験（封入）

	①UVカットリフォームフレキ	②カンタンフレキ	③裸管
出口流体温度 (°C)	42 <47>	59	36 <41>
表面温度 (°C)	37 <51>	22	42 <66>

注記 : < >内の数値は環境温度30°Cの時の試験結果

4.2 保温性試験（通水）

	試料長さ	①UVカットリフォームフレキ	②カンタンフレキ	③裸管
出口流体温度 (°C)	2m	81	81	79
	10m	81	81	79

試験前流体温度 : 81°C 環境温度 : 10°C (両試験共通)

5. まとめ

UVカットリフォームフレキについては、封入し放置したことで流体温度の低下はみられるが、表面温度以上であり、一定の保温効果はあると考えられる。カンタンフレキと比較すると劣る結果となっているが、保温材の寸法や肉厚による部分及びSUS管と保温材の間に隙間があることによる部分もあり、UVカットリフォームフレキは外径を大幅に大きくせずに保温効果を担保していると考えられる。但し、凍結が起こりうる環境下においては、凍結防止の処置が必要。